

[名古屋大学教育発達科学研究科2015年度修了生・修士論文抄録]

日本の大学におけるキャリアポートフォリオに関する研究

程 夢 雪

<修論要約>

近年、大学を中心として高等教育の分野で、ポートフォリオの導入が急速に進んでいる。これは国による施策と関係があると思われる。まず、国によるキャリア教育や就業支援に関する大学への支援政策が次々と展開されている。また、大学の質保証や大学における教育成果の可視化などに関する施策も続々と登場する。このような国の施策・支援を受け、大学側はここ十数年、キャリア形成や学修支援を整備する際にポートフォリオの導入に熱心に取り組んでいる。文部科学省の「キャリア教育・職業教育のあり方について（答申）」（2012）は、発達段階に応じた体系的なキャリア教育のあり方について、キャリア教育における学習状況の振り返りと、教育活動の評価・改善の実施を勧めている。答申の中には、「学習ポートフォリオの活用等により若者が自らの将来を考える機会を作る。また、学校評価や自己点検評価などを生かし、到達目標とそれに基づく評価を適切に行い、教育活動の改善につなげる」、という内容が示されている。

小川（2015）は、「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の育成にeポートフォリオを活用することで、「基礎的・基本的な知識・技能」、「基本的・汎用的能力」、「意欲・態度及び価値観」などの五つの要素が習得できると指摘した。

今日、大学におけるポートフォリオの導入については、事例研究に限ったものが多く、ポートフォリオの導入実態に関する系統的な研究はほとんど見当たらない。また、私立大学におけるポートフォリオの導入が目立つため、これまでは国立大学におけるキャリアポートフォリオの導入はあまり注目されなかった。本研究はその点を踏まえて、日本の国立大学に絞り、キャリアポートフォリオ（キャリア形成の要素を含むポートフォリオ）を導入している国立大学を対象として、文献資料をもとに、キャリアポートフォリオの導入目的、記入項目、機能、授業（キャリア教育科目）との連携等の内容を明らかにするとともに、キャリアポートフォリオの開発・管理に携わる教員を対象に、インタビュー調査を行った。調査結果の分析により、国立大学におけるキャリアポートフォリオが教育全体においてどのように位置づけられているのか、ポートフォリオの導入実態はどういうものなのかを明瞭にした。その結果は以下の通りである。

第1に、各大学のウェブサイト、シラバス、関連報告書などから収集した文献資料をもとに考察した結果、以下のようなことが明らかになった。

(1) ポートフォリオの導入パターンは導入目標によって、①キャリア形成、②学修支援・学習成果の可視化、③ ①と②の両方を含むキャリア形成、学修支援・学習成果の可視化を支援するツールの、三つに分けることができる。キャリア形成のためのポートフォリオは、授業科目におけるキャリアの育成に注目するだけでなく、課外活動や、就職活動への準備等広い視点からキャリア形成を捉え、学生の職業観の育成を支援する。学修支援・学習成果の可視化のためのポートフォリオは、専門性の高い教育支援に用いる傾向がある。授業科目の涵養能力を明確化するとともに、学生に学習目標を意

識させ、学習目標に対する自己点検を行わせることによって、学習力を高める。

(2) ポートフォリオ機能の特徴や導入パターンとの関連性を明らかにした。「学習記録」、「能力自己採点」、「達成度自己評価」、「学習目標記録」、「学習計画・生活計画」等の機能は導入パターンと関係なく、各大学に存在する。「体験・出来事」、「キャリア学習・思考」、「進路・就職関連」、「学習以外の目標記録」等の機能は、キャリア形成支援のためのポートフォリオに現れる傾向が見られる。「科目毎涵養目標・能力の明確化」、「履修課程」、「研究記録」等の機能は、学修支援のためのポートフォリオに現れる傾向がある。

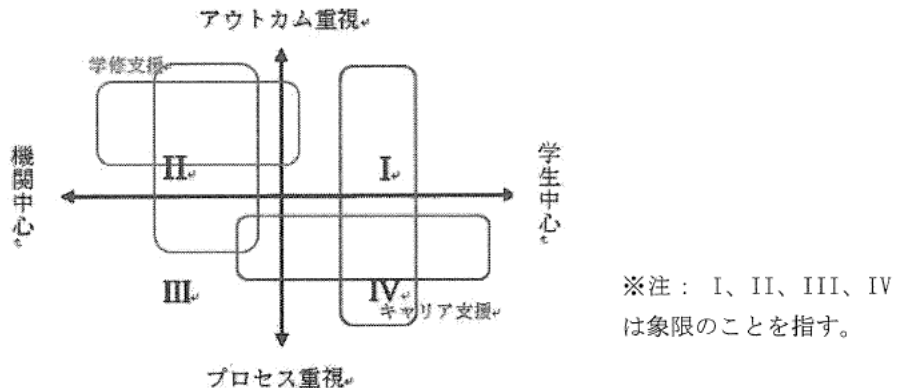
(3) ポートフォリオとキャリア教育科目の連携形態については、以下の3つがある。①授業外において学習内容をポートフォリオで記入する、②授業内でポートフォリオの活用法とその意義を教える、③授業内でポートフォリオ機能を実際を使って作業を行う。

(4) 大学の属性との関連では、総合大学では、ポートフォリオを利用し、専門性の高い教育を支援する特徴があることが分かった。それに対し、複数の学部を持つ複合大学において、全学体制でキャリア形成を支援するポートフォリオの取り組みが主体となる。

第2に、国立大学を「総合大学」、「複合大学」、「単科大学」に分類し、その分類ごとにキャリアポートフォリオを導入している3つの大学を対象に、ポートフォリオの導入・管理に関わる教員にインタビュー調査を実施した。「ポートフォリオの導入の背景」「ポートフォリオ導入のねらいと目的」「ポートフォリオの位置付け」「ポートフォリオの機能設定と工夫」「使用実態」「ポートフォリオに関する教員の認識」「授業科目との連携」「問題点と今後の課題」の7つのカテゴリからインタビュー結果を整理し、分析を行った。それに基づき、考察を加え、以下の結果が明らかになった。

(1) ポートフォリオ導入の背景において、「国の政策」、「外国からの影響」、「学生管理制度」、「学内教育環境」、「eラーニングに対する支援体制」が重要な要因となる。その中に、特に「国の政策」と「学生管理制度」の影響が強い。ポートフォリオの導入目的は「大学の教育目標」、「自己管理・自己点検」、「キャリア支援」、「学修支援」の4つの要因を含む。

(2) 図1が示すように、ポートフォリオの位置付けに関して、キャリア形成を主要な目的としてポートフォリオを導入する大学では、ポートフォリオを教育活動において、個人的、内面的かつ長期的なものとして位置づける側面がある。この場合、図1の、学生中心、プロセス重視の第4象限を中心として展開する。一方、学修支援を主要な目的としてポートフォリオを導入する大学では、ポート



[図1] ポートフォリオの位置づけ (筆者作成)

フォリオを、公開的、表面的かつ短期的なものとして位置づける側面がある。図1では、アウトカム重視、機関中心の第2象限を中心として展開する。

(3) ポートフォリオの使用実態から見て、キャリア形成のためのポートフォリオの導入後、その普及やアフターケアがまだ不十分であることが分かった。また、現場において、教員のポートフォリオへの認識も十分でなかった。今後のポートフォリオの活用に関して、ポートフォリオを導入した後の普及への工夫や教員・職員のアフターケアが重要なポイントとなる。

今後の課題について、本研究では、国立大学を総合大学、複合大学、工学系単科大学に区分し、類型ごとに大学を抽出し、インタビュー調査を実施し、大学の類型とポートフォリオの導入状況の関連性の発見を試みたが、調査協力校が少ないため、大学の属性に関連する分析を欠いている。また、本研究では、私立大学におけるポートフォリオの導入について、先進事例の紹介にとどまっている。今後、私立大学におけるポートフォリオの導入実態を調査することは課題となる。

〈参考文献〉

文部科学省 (2012) 「キャリア教育・職業教育のあり方について (答申)」 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1301877.htm (最終閲覧 2015年12月25日)。

小川賀代 (2015) 「キャリア支援におけるeポートフォリオ活用—持続可能なシステムに向けて—」教育システム情報学会誌Vol.32, No.1